

安定供給できるユズ産地の維持・拡大（平成 29～31 年度）

1 要約

産地の振興を図るために、高知市ユズ産地構造改革計画（以下、産地計画）に基づき、優良系統苗木の新植指導、担い手の確保のための産地提案書の作成、労働力確保対策の強化、省力化技術確立等を支援した。また、中央研修や現地検討会、月 1 回の技術情報紙の発行等で、基本的な技術情報を提供し、省力化栽培のための航空防除技術の導入検討など生産安定につなげるように部会を誘導した。結果、新規就農者の受け入れ体制、事業導入による新植などの新たな動きが出てきた。

2 課題を取り上げた理由（背景・目的）

高知市の北部地区において約 200 戸の農家が 60ha でユズの栽培をしており、多くは、兼業農家で高齢化が進んでいる。また、老木化や粗放園も増加し、隔年結果や異常気象にも見舞われ、所得が不安定になってきている。

そこで、産地計画の実践による産地の振興と販売単価が高い青果及び酢玉 A（果皮も販売できる）の生産への誘導を行う。



3 対象および連携する団体

高知市土佐山柚子生産組合、J A 高知市、高知市土佐山地域振興課、夢産地とさやま開発公社、高知市地域本部

4 目標（評価指標）

	現 状	目 標	実 績
優良系統苗木の新植・改植（ha）	2.4	2.5	2.3
現地検討会（回）	3	6	5
産地提案書作成	なし	検討	完成
指導農業士（名）	0	1	3
労働力の確保支援策の活用ヘルパー数（名）	21	20	27
省力化技術の確立	未確立	確立	未確立
青果生産農家数（戸）	17	22	14
酢玉 A 生産割合（%）	9.8	20	11.7

5 主な活動内容

1) 面積拡大と隔年結果の是正

- ・現地巡回や果実肥大を調査し、生産量を予測した。また、栽培技術向上のため、幼木の主枝誘引方法、せん定方法など現地検討会を実施した。

2) 生産基盤の維持

- ・役員会やチーム会等で、担い手確保対策としての産地提案書を検討、作成した。また、研修の受け皿として指導農業士の推薦を支援した。
- ・労働力確保のため、J A 無料職業紹介所の雇用募集（高知新聞 Q-bo に 7 週連続掲載）や農家募集（「ユズだより」3 回掲載）を支援した。また、生産者間で助

け合う共同防除、技術・知識を要する作業を請け負える人材として、林業従事者への勧誘などを行った。

3) 収益性の高いユズづくり

- ・省力化技術の確立のため、省力化実証ほを設置し調査した。また、防除の省力化のために、ドローンによる航空防除技術導入を検討した。
- ・高品質果実の推進のため、定点園地での果実や作況を調査した。また、短棘系ユズを果樹試験場と連携し、調査した。
- ・毎月、技術情報誌「ユズだより」を作成・配布し、品質向上を誘導した。
- ・中央研修会や現地検討会、個別巡回等で品質向上につながる情報を提供した。

6 活動の結果および成果

1) 結果

優良系統苗木の新植・改植面積は、2.3haとなった。このうち、果樹経営支援対策事業の活用は86aであった。酢玉出荷量は、前年度の冬季における寒害や7月の長雨による影響等により、酢玉受け入れ量は654t（前年比89%）となった。

省力化防除試験は、調査果実数が少なく、判然としなかった。また、防除の省力化のため、ドローンによる航空防除試験実施(31年度)を決めた。短棘系ユズは、棘や収量性から2系統が優良と認定された。

産地提案書が作成でき、指導農業士が合計3名認定された。JA無料職業紹介所を活用したヘルパーは計27名（新規15名＋継続12名）と増加した他、せん定などの技術を有するヘルパーを「ゆずバトン隊」と位置づけており、本年は林業に従事するグループを新たに登録することができた。

2) 成果

現地検討会やユズだより等により、情報提供や共有が図られた。また、指導農業士の増員により担い手の確保が期待できる。JA無料職業紹介所の活用については、特に収穫作業において農家の要望に100%応えることができた。また、高知市ゆずスマート農業検討協議会が設立できた。

7 残された課題および今後の取り組み

1) 残された課題

- ・労働力確保対策として検討した共同防除は、1事例にとどまった。

2) 今後の取り組み

- ・高知市ユズ産地構造改革計画（平成29年3月作成）を実効性のあるものにするため、ユズチーム会や中央研修会、現地検討会で、具体的な対策の検討を行う。
- ・JA無料職業紹介所の活用を促す一方で、「ゆずバトン隊」への必要な講習・研修を開催支援。
- ・中央研修や現地検討会で総合的な栽培技術の情報提供をしていく。
- ・ドローンによる航空防除を活用した省力化栽培、短棘系優良系統ユズなどを導入した総合的な栽培技術による高品質化に取り組んでいく。

【担当者および部門名】

伊藤政雄（果樹部門）、森永茂生（産地育成担当チーフ）、小西則幸（経営・担い手部門）、小笠原香（地域営農担当チーフ）